

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472100595		
法人名	(医)二豊会 国見病院		
事業所名	グループホーム やまもも		
所在地	国東市国見町小熊毛2695番地1		
自己評価作成日	平成26年9月7日	評価結果市町村受理日	平成26年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成26年10月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①毎日の申し送りを正確に共有し合い継続した高質なケアに繋げるよう努めています。
 ②毎月職員会議の後、全職員で事業所が必要としている独自の勉強会を開催して、内容を共有しながら資質の向上を図り、ケアの実践へ繋げています。
 ③QOL(生活の質)の向上に努めています。本人と共に過ごし支え合う関係を密に構くように努め、常に寄り添い信頼関係を密に毎日リハビリ体操から心の歌を唄い、レクを中心とした自由で個々に合ったプログラムを取り入れ、利用者相互の協働と和みを大切に充実した日々を送ってもらうように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・職員間のコミュニケーションが取れており、利用者支援、事業所運営に活かされている。
 ・地域との日常的な交流や定期的なボランティアの訪問が行われている。
 ・利用者の楽しみや残存能力の保持の為、手作りの塗り絵、計算ドリルや習字練習などに職員が積極的に関わっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のミーティングを通じ現状のサービスのあり方が理念「安全」「安心」「笑顔」「真心」「信頼」「地域との交流」に合っているかを共有し確認しています。	開設9年目になり、理念を念頭に置いた地域交流が日常的に行われており、利用者支援に活かされている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お接待行事を一緒に行ったり、お祭りにも参加しています。地元の方々から常に声掛けや定期的な小学児童やトンボノメガネの慰問があります。近隣や地域との交流を大切にしています。	事業所は、保育園児の散歩や近隣住民が気軽に立ち寄れる場となっており、地域行事のお接待では、300人が訪問した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の生活の様子や行事内容等を運営推進委員さんに報告しご意見を頂いています。老人クラブさん等へ施設のパンフレットを配布して認知症ケアの啓発に努めています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員に地元区長・老人クラブ会長・婦人部代表・民生児童委員・介護保険係・家族代表から構成され、事業所の行事内容等を報告し、地域と交流を深める幅広い対策を協議しています。	2か月に1度定期的に行われている。会議の中で津波時の避難場所に近くのお寺が提案され、お寺の承諾を得られている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員に市役所の介護保険係りが加わり、施設の実態を報告申し上げ内容を共有しています。行政・包括支援センターとの連携強化に努めています。町内ケアマネ連絡会でも連携しています。	運営推進会議に、市職員・地域包括の出席がある。管理者が市の福祉課経験者で、職員とも気軽に話し合える関係である。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内主任者会議で身体拘束委員会の内容を職員会議等で共有し実践へ繋げています。特に玄関等の施錠を含め身体拘束をしない圧迫感のない馴染みの環境と自由な暮らしの支援に努めています。	事業所内研修を行っている。安全や危険回避のために一時的に必要性が生じた場合を想定し、家族への説明や承諾書の準備をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法等の内容を職員で共有し、全職員で最善の気遣いと注意を払い、施設内で虐待のない安心・安全かつ穏やかな共同生活が営まれる環境づくりに努めています。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関連する法制度等を全職員で理解を深め、内容を共有し支援体制を整え、個々の必要性に応じ活用できるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時本人・家族等に内容を詳細に説明申し上げ、不安や疑問が生じていないか個人の立場を尊重し、納得の上契約締結しています。重度化看取り等についても説明して事前確認書を貰っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員に家族代表が加わり、幅広い要望や意見等お聞きしています。面会時にも常に要望や多くのご意見をお聞きして、その都度施設運営に反映しています。	家族の面会が多い。家族会はないが、事業所行事の敬老会やお接待、ボランティア訪問時に案内をし、家族からの意見や要望を聞く機会にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや毎月職員会議で担当部屋職員から意見を聞き内容を共有しながら運営全体の指針を示しています。全職員で施設運営の改善策を常に協議して運営に反映するように努めています。	毎月の職員会議を、日中の勤務帯に開き、全職員出席のもと意見を聞いている。また、ミーティング等から出た意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営形態(労務関係・給与・福利厚生)は医療法人二豊会で管理されていますが、施設内で働き易い職場環境の整備に向け全職員が向上心を持って働き易いように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での主任者会議等の内容を、毎月職員会議で内容を共有しています。また、専門的な勉強会で知識や技術を身に付け資質の向上を図り意思統一してケアの実践へ繋げています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内ケアマネ連絡会議等で連携を図り、地域全体でサービスの向上に努めています。行政・社協他施設との情報交換や連絡連携を密に図っています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時に本人の不安や要望等について傾聴の精神でお聞きし、安心かつ納得して入所できるように努めています。本人や家族の思いを優先に、施設と信頼関係を構築する関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時にご家族の不安や要望をしっかりと傾聴の姿勢でお聞きし、家族の思いを受け止め信頼かつ納得して入所して頂くようにできる限りの対応に努めています。安心してサービスの提供が受けられるよう関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期に本人家族の抱えているニーズや要望をお聞きし、他のサービス利用の調整を図りながら安心して入所できるように努めています。必要としている支援を見極めた上で信頼関係を構築するように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人がこれまで培ってきた生活環境や特技や趣味等残存機能を活かして喜怒哀楽を共感しています。常に寄り添い信頼関係を結びお互いが協働し穏かな関係を構築するよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は常に本人や家族の要望等お聞きし、本人本位の支援に努めています。毎月ご家族へお手紙等で施設の内容お知らせしています。面会も頻繁にきて頂き本人と家族、そして職員との絆を大切に築く関係づくりに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地区のお接待に出かけお話ししたり、施設のお接待にも来て頂き馴染みの方々から声掛け合い喜んで貰っています。近くのお宮へ参拝したり、近隣と馴染みの交流ができるよう努めています。	自宅に泊まったり家族との外出、友人の訪問を受けること等で、馴染みの場や人との継続支援に繋げている。また、ボランティアとの馴染みの関係が構築されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、利用者全員でボール遊びやリハビリ体操、心の歌を唄ったり、絵や計算ドリル、書道等皆んで一緒に行い、楽しく過ごせるよう支援しています。利用者同士の協働関わり合いを大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	例えばサービスの利用(契約)が終了しても経過を見守ったり、面会にお伺いして継続的な情報の把握に努め、生活全体の相談支援に努め関係を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に寄り添い関わりの中から、一人ひとりの思いや意向の把握に努めています。表情や状態等で本人の心と身体状態の把握に努め、本人本位の希望に合った暮らしができるよう支援しています。	ゆったりとした雰囲気の中で語られることばから思いを汲み取り、日々の係わりの中で、表情や動作から様々な思いを汲み取っている。	職員が、様々な場面で思いや意向の情報を得ているが、記録として残されていない。記録として残すことにより、職員間の共有が図られ、個々の支援計画に繋げることを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のこれまでの生活歴や暮らし方、サービス利用の経過等の把握に努めて、職員が本人・家族と馴染みの関係を築き、本人本位の質の高いサービスの支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに寄り添い本人の心身状態等の全体的な把握に努め、今必要とする本人本位の希望に合った、できる力、わかる力、有する力を見抜き暮らし全体の支援に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題を踏まえ家族の希望に即した介護計画の見直しを図るように努めています。6ヶ月毎に介護計画と実践の場のズレや改善点を家族と全職員で協議し内容を共有し介護計画とモニタリングを行っています。	入所時に得られた情報をもとに、担当者が介護計画を作成している。毎月の職員会議で話し合い、3か月に1度、モニタリングを行っている。	利用者の課題中心の介護計画が作成されている為、家族の意見や日々の支援の中で得られた情報が活かされていない。家族や職員の意見や要望を組み入れたチームでの介護計画作成が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日健康状態やバイタル測定を行い、きめ細かな情報と気づきを織り込み個別記録簿に記入し、全職員で情報を共有し日々のケアに活かしています。必要に応じ介護計画の見直しにも繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族が今必要とするニーズに対応するように努めています。一人ひとりを支えるよう開放的で柔軟性のある、あらゆるサービスの多機能化が活かされるように取り組んでいます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣を始め、行政・民生委員・老人クラブ・警察・消防等の協力と連携を強化しています。安全で豊かな暮らしができるよう地域と一体となった施設運営に努めています。頻繁に近隣の方々や警察官が立ち寄り支援頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に合った適切な受診ができて体制ができています。医療法人にて毎日保健師が健康チェックと週2回の回診があり、何時でも適切な医療を受けられる体制が整っています。	母体医療法人が掛かりつけ医となっている。定期的に受診し、職員対応で行われている。夜間の急病時には、法人看護師が対応する体制が作られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日看護師が身体・健康状態を把握しています。医療法人にて病院とは常時連絡が取れ緊急医療体制が整っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人や家族の意向を尊重し入退院時は安心して治療が受けられるよう情報交換や支援方法等について医療機関で連携が図られています。。医療法人にて病院とは常時連絡が取れ医療体制が整っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向に配慮し高質なサービスが受けられるよう努力しています。入所時に終末期に向けた要望等お聞きし承諾を得ています。また、随時意向を確認しその都度柔軟で適切な支援に努めています。	重度化や終末期には、母体医療法人への住み替えを基本方針とし利用開始時に説明を行っている。住み替えの状況判断は、母体法人の院長が行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々利用者の身体状態の把握に努め、急変や事故発生時には適切な処置ができるように努めています。初期対応の実践に備え毎年通報訓練や心肺蘇生訓練を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害・風水害マニュアルを共有しています。防災関連については、火災報知器やスプリンクラー等の防災設備が整備されています。消防計画を策定し総合防災訓練や毎月避難訓練を実施して万全に備えています。	毎月、利用者全員での避難訓練を行っている。総合防災訓練は、消防署、運営推進会議メンバーも参加して行っている。避難場所は事業所横の駐車場となっているが、津波などの非常時には、高台にあるお寺を避難場所としている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月の勉強会から全職員で資質の向上を図り、言葉遣いや接遇、態度等に気配りし内容を共有してプライバシー保護の徹底に努めています。日々利用者の尊厳と人格・人権意識を尊重するよう努めています。	接遇マナーの講師を呼び、研修を行っている。利用者とのコミュニケーションは、親しい言葉遣いの中にも礼節を重んじた支援が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や意向について、常に傾聴の姿勢と柔軟な態度で望み、要望が叶え自己決定ができるよう支援しています。常に寄り添い一人ひとりの生活リズムを理解し適切で高質なサービスの支援に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が望むニーズや希望に合った一人ひとりのペースに合わせて毎日が有意義で楽しい生活が送れるよう支援に努めています。本人が日々満足される暮らしの提供に全職員が懸命に取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望や意向を尊重し心地よい身だしなみやおしゃれができるよう支援しています。鏡を見ては髪をトイたり、外出時の服装や髪やセッや持ち物等本人の好みやおしゃれや身だしなみの支援に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者全員が一緒に団欒し食事を楽しむ環境づくりに努めています。職員と一緒に食事の後片付け等にも協力して頂いています。野菜を育て四季折々の新鮮な野菜を頂き食の楽しさに努めています。	法人栄養士が献立を作成し、事業所内で職員が調理している。事業所で採れた野菜や近隣住民からの差し入れ野菜も食卓へのぼり、職員と利用者が同じ食事を一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取については、一人ひとりの日々の体調健康状態を把握し、適切な量や栄養バランスに努めています。水分摂取についても飲水量の確認を行い、水分不足にならないよう個別の支援に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後習慣的に歯磨きの励行を行っています。一人ひとりの力に応じた義歯・歯磨きの手伝いから入れ歯管理や口腔ケアや清潔に努めています。歯磨きの習慣づけをしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を参考に、個々の排泄パターンに応じた誘導や個別ケアに努めています。全職員が一人ひとりのサインを把握し適切な排泄に努め、習慣を活かしてできる限り自立に向けた支援に努めています。	利用者の生活習慣をもとに、トイレ誘導や声掛けを行い、パッドや紙パンツの汚染が少なくなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リハビリ体操やボール遊び等を毎日取り入れ運動の大切さと体を動かす習慣づけをしています。排泄チェック表と身体状態を把握し、個別ケアに努め自然排泄を促すように努めています。水分補給に特に力を入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴パターンは設定していますが、個々のその時々意向に沿って入浴の楽しさを感じて頂くように努めています。本人の希望を優先にくつろいだ気分で楽しく入浴できるよう常に柔軟な対応と個々に合った支援に努めています。	週3回入浴を基本としている。毎日、風呂を沸かし、利用者は全員、湯船に浸かり、職員と会話を交わしながら、ゆったりと入浴を楽しむ支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクを中心に運動に励み日中の活動を盛んに個々の生活リズムを整えるように努めています。本人の望む休息や安心して気持ちよく眠れる自然な生活習慣や環境づくりに努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が服薬ファイルや処方箋から薬剤の内容を把握しています。一人ひとりの薬剤を確認し正確な服薬の支援に努めています。症状の変化の把握に努め身体の状態等について病院に報告し指示を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが培ってきた生活歴から趣味や楽しみを最大限活かし張りのある生活が送れるよう個々のペースに合った支援に努めています。個々の好みに合った楽しさや活力を実感できるよう最大限の支援に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の意向を尊重し、外出や外泊は家族の希望でいつでもできるよう支援しています。四季折々野外活動を取り入れるように支援しています。花見や向日葵見学や紅葉見学等の野外活動を取り入れています。	個別外出支援は、家族対応で行われている。年数回の集団での外出は、向日葵や桜、紅葉見物に出かけている。外出時は、職員手作りのおにぎりなどを持参している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の必要な品物は、面会時等を通じて家族へお願いしています。必要な品物や緊急的な場合は家族へ連絡してから職員が代行して購入しています。特にお金の所持はしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、家族へ近況のお手紙を書いて、生活の様子を紹介しています。家族等からの電話の場合は本人に直接話させます。手紙のやり取りは自由にできますし必要に応じ個別的な支援に努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの感覚や価値観に配慮した四季折々生活の場にふさわしい居心地よい空間づくりに専念するように努めています。生活感や四季感をうまく活用しながら快適で居心地良い空間づくりに努めています。	食卓を中心とした共有空間は、適温に保たれ、台所からの調理の音や香り、職員との会話を楽しむことが出来る。日中は利用者皆が、テレビを見たり、食卓で塗り絵や計算ドリルをして過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者個々の状態の変化等に配慮して、思い思いに過ごせるよう配慮しています。自室でくつろいだり隣の部屋でくつろぐ等仲間同士が自由に過ごせる工夫や居場所づくりを支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の馴染みの物や趣味を活かし、好きな物を置いたり自作の作品集や写真を飾ったりして温かい雰囲気づくりに努め、本人が居心地よく自由に過ごせるよう工夫をしています。	事業所は、神社や畑など自然囲まれた場所に立地しており、各居室からは、それらの景色が望め、四季の移り変わりを感じる事ができる。衣替えの衣類や寝具の管理は、家族対応となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のかかわる自立支援に努め、本人の力や状態に応じ馴染みの環境づくりに努めています。あらゆる空間には写真や自作の作品集を装飾したりして、安心して自立した生活が営まれるよう支援しています。		